

障害者と共に



クリスマスを前にして

チャプレン 金子 敬

私の通う大牟田フレンドシップキリスト教会では毎週日曜日に主日礼拝をささげます。その礼拝の最初は「招詞」（招きのことば）で、最後は「祝祷」（祝福派遣のことば）です。一週間の仕事を終えたお互いが、「キリストの招き」を受けて一堂に会し、主

「恵愛園」に関する大切な言葉があります。「キリストの恵み」「神の愛」「聖靈の交わり（＝園）」です。

この手紙はパウロが伝道して教会形成したコリントの教会に対して、彼らの弱さに寄り添いつつも、他者への心遣いを喚起する大切な要件を含む書簡です。それがこの手紙の八章、九章に記される困窮するエルサレム教会への献金要請であり、その例証となつたのがマケドニア州の諸教会の「神の恵み」についての証しです。

それは、新約聖書コリントの信徒への手紙二の最後のことば、「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖靈の交わりが、あなたがた一同と共にあります。」（十三章十三節）とのことです。ここでお気づきのように、この御言葉の中に、

「彼らは苦しみによる激しい試練を受けていたのに、その満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、人に惜しまず施す豊かさとなつたということです。」（同八章二節）とあります。試練や苦しみ、極度の貧しさの中で、「惜しまず施す豊かさ」と記されます。パウロ

第99号

社会福祉法人
キリスト者奉仕会
大牟田市新勝立町3丁目5番地15
大牟田恵愛園
恵愛ワークセンター
ハ 一 んく ぱん ほ たつ

はコリントの教会に対してもこの「豊かさ」に気づいてほしいと願うのです。その根拠になるのが、「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであつたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによつて、あなたがたが豊かになるためだつたのです。」（同八章九節）との御言葉です。

「恵」と「愛」は「交わり」において結実します。受けただけではならぬ。それは、主の貧しさに与ることで「交わり」の豊かさに加えられるからです。教会で主日礼拝をささげる行為は、捧げる人の気持ちを整えることに終わりません。ここで神の言葉に接し、その恵みと愛に気づかされ、これを持ち運ぶ新たな使命に生かされてこそ、礼拝者として本領を發揮するのです。



私たちがクリスマスに主イエス・キリストの本物の豊かさ（それは私たちのために貧しくなられたこと！）に与ることを期待されているのです。

私たちが派遣される「交わり」は、捧げる人の気持ちを整えることは、決して結実しません。ここで神の言葉に接し、その恵みと愛に気づかれて、これを持ち運ぶ新たな使命に生かされてこそ、礼拝者として本領を發揮するのです。

私たちが派遣される「交わり」はこの世にあり、日々に歩みを共にするキリスト者奉仕会の仲間にあります。障がいがあつてもなくとも、共に生きることを喜ぶ人々、単に働き場としての「職場」を超えて、自由な聖靈の行き交うところ、この交わり（園）の中に派遣されていることを思い描いていただきたいのです。

皆さま方の上に、これからクリスマスシーズン、「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖靈の交わり」が豊かにありますように、お祈りしています。

重度の障がいのある人 にとつての就労支援

理事長 叶 義文

二〇二〇年のクリスマスも近づいてまいりました。コロナ感染が収まらない中、今年のクリスマスは、オンライン・クリスマス礼拝になりそうです。感染拡大の中、心配や不安の中で、過ごされている方々も多いことと思います。一日も早い収束を心から願います。

さて、今回のテーマは「重度の障がいのある人にとっての就労支援」についてです。人は「働く」ことにより、自分の役割を持ち、他者とつながり、自分が必要とされていることを感じることができます。また、働く喜びややりがい、社会貢献にもつながります。生活のための収入を得るために働くという人も多いでしょう。一方、重度の障がいゆえに、仕事はできても送迎が必要であったり、トイレや食事の介助、特別な設備が必要であったりと、そのハンドルの高さゆえに多くの方々が働くことをあきらめてきたことがあります。

重い障がいがあつても、働くことを希望する人たちが「働く場」が保障されるということはとても重要なことです。

なことです。

図1の通り、障がいのある人たちの働く場は様々です。それぞれの場で働く人數は下記の通りですが、一般的就労に続いて、B型事業所で働く人が多くなっています。また、全国の賃金・工賃の実績では、A型事業所の平均賃金も、B型事業所の平均工賃も、まだまだ低い金額となっています。特にB型事業所については年金と合わせても生活保護の額よりも低い水準となっています。

さて、わたしは全国社会就労センター協議会(セルフ協)に所属し活動しています。セルフ協とは、一九七七年に全国の障がい者の働く施設が集まり結成された組織で、障がいのある人の「働く・くらす」を支援している組織です。そのセルフ協で大切にしていることとして次のことがあります。一つは、一般就労を受けた支援です。もう一つは、福祉的就労の充実です。福祉的就労とは、様々な理由により一般就労が難しかった人たちに、働く場を提供し、働く喜びを持つて、いきいきと働くことができるよう支援することです。

また、その人が年金と合わせて経済的にも自立して暮らせる工賃水準を目指していくことです。

【図1】

就労の種類	働き方(サービスの内容)	障がいのある人の働く人數	賃金・工賃
一般就労	一般企業や公的機関(行政機関等)などに就職して、労働契約を結んで働く一般的な就労形態 ※公的機関とは、国、都道府県、市町村、独立行政法人等	民間 461,811人 公的 54,032人 ※ダブルカウント等除く実人員を記入	原則 最低賃金以上
特例子会社	親会社の実雇用率に算定できる仕組みで、障害者雇用に特別の配慮をした子会社 <雇用契約>	約37,000人 (517社)	原則 最低賃金以上
就労継続支援 事業A型	一般企業等での就労が困難な人に、必要な公的支援のもとでの働く場 <雇用契約が前提、原則最低賃金以上の賃金>	約71,000人 (3,808ヶ所)	月額 76,887円 (全国平均賃金)
就労継続支援 事業B型	一般企業等での就労が困難な人に、必要な公的支援のもとでの働く場 <雇用契約なし、工賃支給>	約265,000人 (12,841事業所)	月額 16,118円 (全国平均工賃)
生活介護事業 (就労あり)	日常的に介護が必要な人に介護を行うとともに生産活動の機会を提供する場 <雇用契約なし、工賃支給> ※生活介護の場合は、就労ありと就労なしの人がいる	統計なし 約287,000人 (就労あり・なしの合計)	統計なし
就労移行支援 事業	一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために取り組み、就職をめざす場 <雇用契約なし>	約34,000人 (3,120ヶ所)	統計なし



我が法人においても、就労移行支援事業、就労定着支援事業、就労継続支援A型・B型事業、生活介護事業等に取り組んでいます。就労移行支援と定着支援では、企業等への就職を希望する障がいのある方々へ、ハローワークや関係機関と連携しながら就職に向けた支援、就労後の定着支援等を行います。

就労継続支援B型・生活介護（就労あり）の事業に取り組む「大牟田恵愛園」では、クリーニング作業を行っています。障がいのある人たちが、病院や高齢者施設等の看護衣、病衣、私物、タオル、おしごり等のクリーニングの仕事に取り組んでいます。

また、「たんぽぽ」では、就労継続の場として就労継続支援A型・B型に取り組んでいます。仕事の内容としては、弁当事業やレストラン事業等です。一日約四五〇個の弁当を作り、学校、市役所、企業、個人等に配達しています。また、たんぽぽは病院の食堂を任せられて一日平均七〇食の昼食を病院食堂にて提供しています。たんぽぽのA型事業では月約十万三千円の賃金、B型事業では月約三万七千円の工賃を支給し



ています。
また、「恵愛ワークセンター」でも、就労継続の場として、A型・B型事業に取り組んでいて、パン事業、タオル製造、施設外就労等に取り組んでいます。恵愛ワークセンターのA型事業では月約十万円の賃金、B型事業では月約三万三千円の工賃を支給し、年金と合わせて地域生活が可能となるよう取り組んでいるところです。

一九九九年、ILO（国際労働機

関）総会において提唱された言葉として「デイーセントワーク」という言葉があります。「デイーセントワーク」とは、「働きがいのある人間らしい仕事」のことです。それは、生

活の安定も含めて、人間としての尊厳を保てる生産的な仕事です。ILOはすべての人に「デイーセント

ワークの実現」を目指しています。二〇〇七年一二月には国連の事務総長が、「デイーセント・ワーク」を障がい者の分野でもっと実践するようとも提唱しています。障がいのある人々たちは、様々な場で働いていますが、その様々な場での働きの中で、この尊厳のある労働・人間らしい労働・生活の安定も含めた「デイーセントワークの推進」が求められています。

おいて「障害者権利条約」が採択されました。その条約の二七条「労働及び雇用」には、「障害者が他の者と平等に労働についての権利を有すること」が謳われています。さらに、あらゆる形態の雇用に係るすべての事項（募集、採用及び雇用の条件、雇用の継続・昇進並びに安全かつ健康的な作業条件を含む）に関し、障がいに基づく差別を禁止することが謳われています。

就労支援について考える時、障害者権利条約にあるように、「他の者との平等の権利」という点で言えば、労働条件・給与面等、まだまだ解決すべき課題は多く残されているといえます。
昨今、就労支援（特に就労継続B型）のあり方についてはさまざまな議論が起っています。しかし、大切なことは、安易な改革により「重度障がい者の働く場が失われない」ことです。自分の役割を持ち、いきいきと働くことができ「働く場」が保障されることは極めて重要です。一般的就労がむずかしい重度の障がいのある人たちが「多様な就業の場から自分に合った働く場を選択し、いきいきと働き続けることができ、地域社会で平等に暮らしていくこと」まさにその本質が問われているのだと思います。

二〇〇六年一二月に国連総会に

大牟田恵愛園

コロナ禍で楽しむ レクリエーション

なない作業責任者 平島 勇貴

今年に入つてから首都圏を中心には猛威を振るい始めた、新型コロナウイルス。徐々にその波が地方にも及び始めたのは四月、とうとう大牟田にも初の感染者が出ました。そこから感染者は徐々に増えていき、十月六日現在で大牟田市では八十七名の感染者が確認されています。

春頃から私たちの生活様式も少しずつ変化し、当法人を利用される利用者の方々にも変化が生まれています。法人や施設で行つて、行事も、感染予防の観点から中止になつたり、規模を大幅に縮小したりと、楽しむことが減つてきているのは事実です。

その中で、今、何が出来るかを検討し、楽しいことをしていこうと始めたのが、「昼食付レクリエーション」でした。ただ、以前のように人が多い所へ外出して楽しむというのではなく、

普段の日常に楽しいことを少しプラスした、非日常を楽しんでいただけたらと、部署ごとに感染対策を講じながら様々なことを行つています。

今回はなない作業のレクリエーションについて紹介したいと思います。

新型コロナウイルスが少し落ち着きを見せた九月十五日。アンケートを取り、一番意見の多かつたBBQを行なない作業のみなさんと一緒にいました。感染対策として飛沫防止のアクリル板を目の前に立てたり、他の方と接触がないよう、職員がお肉を配つたりなど、利用者同士コミュニケーションを取つたり、中々外出が出来ない利用者の方はとても喜ばれています。

新型コロナウイルスが少し落ち着きを見せた九月十五日。アンケートを取り、一番意見の多かつたBBQを行なない作業のみなさんと一緒にいました。感染対策として飛沫防止のアクリル板を目の前に立てたり、他の方と接觸がないよう、職員がお肉を配つたりなど、利用者同士コミュニケーションを取つたり、中々外出が出来ない利用者の方はとても喜ばれています。

少しでも楽しい雰囲気をと、ユニットにみんなで作つた飾りで華やかにし、感染予防のため、昼食は普段と違うお弁当。イタリアンっぽいメニューです。手作りの大きなハンバーグや自家製ワインナーなど

いつもありました。また、普段話す機会があまりない方たち同士がコミュニケーションを取つたり、利用者の誕生日をみんなでお祝いしたりなど、笑顔の絶えないBBQになつてきました。

この機関紙が発行される十一月にも「昼食付レクリエーション」を予定しています。利用者も職員もみんなでいっぱい楽しみましょう。

にも同じものを食べてほしいと作つた「綿菓子」は、口の中にいれると溶けてしまいます。五色のザラメを準備し、見た目にもカラフルに！予定しています。利用者も職員もみんなでいっぱい楽しみましょう。

五十年ぶりの綿菓子

入所・スマイル責任者 奥野 陽子

毎日のニュースの中で耳にしない日々はない「新型コロナウイルス」私たちの生活様式は大きくかわり利用者の方が楽しみにされてある日帰り旅行や一泊旅行も中止、行事も大きく減つてしましました。そんな中、何か楽しいことを考えてみようと「昼食付レクリエーション」を企画！



つけたおかげで汁物、全粥。時々「俺は食わんぞ！」と怒られることもあります。自分は昔元気だったと自分自身に怒っているのかも知れません。そんなAさんも今は甘いものも好きになつていて「懐かしかうまいな、五十年ぶりに食つたかな」と何度も繰り返しおっしゃっています。自分が印象的でした。スマイルメンバーだけでなくユニットを通りかかり、綿菓子を見かけた方も「俺にもよかかね」とAさんだけでなくほかの方が「子供の時の祭り以来かな」「懐かしか」と喜ばれていました。Aさんは「懐かしか」と喜ばれていました。この機関紙が発行される十一月にも「昼食付レクリエーション」を予定しています。利用者も職員もみんなでいっぱい楽しみましょう。

惠愛ワークセンター

新規作業への取り組み

委託事業副責任者 古賀 裕康

惠愛ワークセンター委託事業では、タオル部門・施設外就労部門(信号電材(株)・柴田産業(株))を主として、利用者さんに合った作業を提供しているのですが、昨年度三月からの新型コロナウイルスで様々な分野に影響している中、委託事業でも大きく変化がありました。施設外就労の信号電材(株)では製造部品の入荷の目途が立たず作業全体数の減少により作業員の削減を先方より要求され、本来六名が出向き作業していましたが四名体制と変更し、ローテーションで回すこととなりました。施設外へ行く事が出来ない方はワークセンターに残りタオルの作業に参加されますが、そのタオル部門でも生産枚数が減少し、一日一万二千枚をライン構成し製造していた所を、九千枚まで落ち込み、現在は企業様の工面と好意を頂き安定した数量として一日一万枚を提供して頂き製造しています。それでも利用者さんの人数を考えると

十分な作業量では無かつたので、共同受注窓口業務の作業に精密検査の作業開始となりました。作業内容としては①精密部品の入った箱のふたを開ける。(一箱に部品五十個箱詰めされている)②不良品がないか目視で確認。③不良品があつた場合は箱ごと不良品として出す。(パッキンのすれ、ダブルパッキン、部品の不具合等)④良品であれば箱のふたをしてガムテープで止める。⑤箱の表面にラベルを貼る。までが作業の流れとなります。検査目的や許容範囲が判るように先方から、不良品見本を頂きます。この作業はスペース等から三名もしくは四名で作業に取りかかります。この作業はスペース等から三名で一ポリ(一箱に五十個×六箱で一ポリ)を目標数量としています。

作業の進み具合や残り数の確認や完了時には積みあがつた数として見てることができ達成感もあり意欲向上に繋がっていくかと思います。今までとは異なる作業や環境で、利用者の方だけでなく職員も戸惑いながらの作業ではあります。この作業を通して新たな仕事への取り組み方や充実感などを共有し委託事業全体が活性化していくらうと思います。

『グルメの会』

旅行委員 渡邊 星子

今年度の惠愛ワークセンターの日帰り旅行は、八月から十月にかけ三回予定されていましたが、新型コロナウイルスの影響により感染予防の為、「グルメの会」に変更となりました。「グルメの会」はコロナ禍でも利用者の方に楽しんで頂けるよう、近場で短時間で少人数で美味しい食事をしようと企画されました。「おいしいお弁当&カラオケ」「うなぎ&寿司」「バーベキュー」の三つから好きなコースを一つ選んで参加していただきました。

十月三日(土)に「おいしいお弁当&カラオケ」と「うなぎ&寿司」が行わされました。「おいしいお弁当&カラオケ」チームは、十二名の利用者の方が参加されローストビーフのおいしいお弁当を食べ、カラオケで演歌やアニメソング等をとても上手に歌わせていました。「うなぎ&寿司」チームは八名の利用者の方が参加され、お店に二台の公用車で行ききました。うなぎのセイロ蒸しやお寿司を堪能され、その後道の駅に立ち寄り買い物を楽しまれました。

十月十日(土)に「バーベキュー」が行われました。台風接近で開催が

危ぶまれましたが、当日は秋晴れとなり屋外で行うことができました。

「バーベキュー」チームは十九名の利用者が参加され、お肉をお腹いっぱい食べられました。楽しめた。」と言わっていました。

来年度は利用者のみなさんがとても楽しみにされている一泊旅行の年です。新型コロナウイルスが収束し制限なくおもいきり楽しめるようになればと思います。



障害者就労・自立支援センター

「たんぽぽ」

平原校区 ほつと安心ネットワーク 模擬訓練(報告)

地域交流センター担当 今村 直子

九月二十日(日)秋晴れの中、平原校区ほつと安心ネットワーク模擬訓練を行いました。

模擬訓練は今年で十七回目となりました。これまで行方不明者役の方を発見したら、直接声掛けをおこなう方法でしたが、今年は新型コロナウイルスの影響により、行方不明者役の方への声かけが難しくなり、従来の訓練方法が行えない状況でした。

それでも、コロナ禍の中で出来る事を事務局の皆さんと考え、今年は発見したら電話で通報してもらうという方法で訓練を行うことになりました。平原小学校と協力し、在学生の保護者へメールを利用して模擬訓練の案内を配信し参加してもらうには行方不明者役で参加して頂き、



今年度はたんぽぽが担当事務局でした。初めての担当でご迷惑をかける事も多く、戸惑いもありましたが、今回の訓練を通じて、改めて地域連携の大切さを感じました。今後もこのような訓練を行っていくことで、住み慣れた地域で安心して暮らす事が出来る大牟田市につながる事を期待しています。

校区会長や役員、市職員とそれぞれのコースを歩いて頂きました。

地域の方々へはポスター掲示やチラシの回覧、周知の声かけなどの協力を頂き、最終的に三十九名の方から発見のお電話を頂く事が出来ました。

「働く・暮らす」利用者インタビュー

Vol.8

「働く・暮らす」利用者インタビューも今回で第8弾となりました。今回は地域生活をしながらそよかぜで働かれている就労継続支援B型の利用者さんと、たんぽぽの就労移行支援を利用後、一般就職された方のお二人にいろんな質問に答えて頂きました。

杉本 亮さん 所属:就労継続支援B型(作業事務)



Q たんぽぽではどのような仕事をしていますか?

A お弁当部門の日々の売上の打ち込みや、食材発注の打ち込み、チラシの作成などパソコンを使った仕事をしています。

Q 仕事をしていて大変なことや楽しいことは何ですか?

A 大変なことは特にないです。1日の仕事を自分なりにスムーズに回し、終了できた時は充実感があります。

Q お休みの日はどんなことをしているときが楽しいですか?

A 基本的に飲んでいます(笑)。囲碁をしてみたいがなかなか時間が取れずコロナで外出がしにくいです。

Q これからやってみたいこと等ありますか?

A パソコンを買って囲碁のゲームをしてみたい。

Q 杉本さんにとってのお仕事とは?

A 自分の楽しみを行っていくための収入源。

支援者より

2003年よりお弁当の「そよかぜ」が始まり、それまでなかなか仕事をすることができなかった杉本さんですが、作業事務の仕事がマッチし遅刻や休むことなく仕事を頑張られています。休みの日など自分で買ったパソコンの本で勉強し、エクセルの数式などたくさん覚えられ、今ではどの職員より詳しくなったパソコンのスペシャリストです!

野口 雄平さん 所属:就労移行支援(元利用者)



Q 所属している会社名と仕事内容を教えてください。

A 室町ケミカル株式会社に所属しています。仕事内容は商品の検品と梱包、包装作業を担当しています。

Q 仕事の中で大変なことは何ですか?

A 検品の際、ほんのわずかな傷やシワでも不良品となります。さらに15分以内に8箱分の商品を検品するという目標が設定してあるので、作業の正確性とスピードのバランスを取るのが難しいです。今はまだ働き始めて間もないのですが、まずは正確性を重視して作業を行っていますが、これからは検品の目標数を達成できるようスピードを上げていきたいと思っています。

Q 仕事をするにあたっての配慮は何かしてもらっていますか?

A 自分は先の見通しが立たないと不安になることが多いので、明確な目標数を示してもらっているのは私にとってとてもありがたい配慮になっています。

Q 一般就労を選択した理由を教えてください。

A 自分は将来、一人暮らしをしたいと思っているので、そのためにもある程度の収入が必要だと考え一般就労を選択しました。今は家中でも、自分にできる家事は自分でやれるように練習しています。

支援者より

サテライト利用当初は事務の仕事を希望されていましたが、様々な実習を行う中で工場での仕事に高い適性があることがわかり、また野口さん自身も「働きやすい」と感じられたことで工場での就職が決まりました。今は一人暮らしという夢を実現するため、仕事でも家事でも自分にできることを少しづつ増やしていくつもりです。我々支援者も野口さんの夢が叶えられるよう、サポートしていきたいと思っています。

ハーツ

コロナ禍でのパソコン教室

事業責任者 中村留美子

障害者生活支援センターハーツでは大牟田市からの委託事業として、障がいのある人達を対象としたパソコン教室を行っています。電源のオンオフから教えてもらえるのでパソコンを触るのは初めてという初心者の方も安心して来てもらえる教室です。

平成十一年から始まつたこのパソコン教室は年に二回の定期コースを行つていて、前期は六月に始まり後期は十月末頃に始まります。これとは別に修了者の人達を対象としたフォローアップ教室を月に一回行つきました。ところが、今年は新型コロナウイルスのため申込者は零人、開始時期は無期延期となつてしましました。

さて、待つている間に今年のパソコン教室をどうするか決めなくてはなりません。できれば中止にはしたくない。まず開始の時期は状況を見極めながらになるため、年二回の定期コースを一回に減らし、減った分はフォローアップ教室の回数を増やすこととカバーすることになりました。

緊急事態宣言も比較的早期に解除され、市内の感染者もあまり出ないまま七月に入り、九月開始でいけるかも知れないと思つた矢先に感染者が急増。結局、今年度のパソコン教室は定期コースが中止となりフォローアップ教室だけ行う事になりました。九月末から再開したフォローアップ教室はさらに増やして一か月に四回行つています。

予想外だつたのは、フォローアップの回数が増えたことで修了者の皆さんにとっても喜ばれているということです。確かに二十年間の修了者の人数に対して月一回のフォローアップではとても足りていなかつたのだと思います。

まだしばらくはコロナに振り回されてしまうのでしょうか、二十年も続いたパソコン教室ですし、楽しみにされている人達もいらっしゃるので、これからも頑張つてやつていいこうと思ひます。

ちょっと変わった先生が放つおやじギャグに職員が辛口のツッコミを入れる楽しい教室です。来年度の予定は未定ですが、興味のある方は申し込んでみてください。

グループホーム事業を十年以上運営し、私が感じる課題をまとめてみま

次に予防対策をどうするか。通常は四五名の生徒さんを三名に減らし、机を離して対面にならないよう座つてもらう。入室時のアルコール消毒と検温、マスクの着用。時間中には窓を開けて換気を良くし、テープルやイスだけではなくパソコンのキーボードやマウスも消毒するようにしました。

つくしんぼ

グループホーム事業の現状と課題

副施設長 富安 妙子

二〇〇九年にグループホーム事業を立ち上げ、この間に七ヶ所のグループホーム展開を行つてきました。施設入所されていた利用者の方が地域生活を希望され入居されたり、高齢のご家族と暮らされていて、介護する方がいなくなつた、難しくなつた方が入居されたり、ご家族から自立して生活をしたいと言われ入居された方等がおられます。

四つ目は、夜間支援員の配置による運営しているグループホームで生活されていて利用者が身体状況の変化により、生活しづらくなられていました。やはり身体に障がいのある方の住環境を考えるとバリアフリー住宅の提供及びグループホーム住み替え等が課題となつてきます。

五つ目は、事務所機能の移転です。つくしんぼ事務所は現在、大牟田恵愛園（今山）の施設の一室を借用しています。事務所が山の上にある為、世話人、生活支援員等が事務所に立ち寄り、顔をあわせる機会が少ない状況です。地域に事務所機能を移転し、職員で今以上にコミュニケーションを取れるようになっていきたいです。

課題ひとつひとつにできるだけ早い時期に取り組んでいきたいと思います。

した。一つ目は、土、日曜日の余暇の過ごし方です。ヘルパー不足により、土曜日、日曜日に出かけたくともなかなか出かけられない状況があります。二つ目は、人材確保です。グループホームでの生活を希望される方はまだおられ、重度の障がいのある方の生活支援に関しては、やはりマンパワーが必要です。

二〇二〇年八月一日
二〇二〇年十月十五日

※顧不同・敬称略



朝枝 育美、阿津坂 秀人、(医療法人)飯田クリニック、浦田 英二・恵子、エサキサウンドサービス、太田 勝利、大西 克子、大牟田防災工業(株)、大牟田めぐみ教会、岡田 律子、金子 敬、北岡 敏郎、くすめ よし、古賀 敬之、古賀 健太郎、菅原 めぐみ、関戸 五枝、セブンイレブン大牟田銀水店、田中晶矩、塚本二作、弟子丸 たか子、富重 忠行、中島 洋子、永野 繼行、中村 直人、ナゴミグレースチャーチ、野中 保司、平島 龍一郎、蓑田 恭子、宗広 一美、森 三希子、安永 正重、柳野 知加、(株)幸和、(株)西日本医療センター、亀井川 政子

ご協力ありがとうございました

■寄付金(一般、建設募金、友の会)

恵愛友の会会員募集!!

「障害者福祉」の益々の充実を願いつつ、ともに歩み支えていただける会員を募集しております。

一般会員	一口	500円/月
特別会員	一口	1,000円/月
賛助会員	一口	300円/月
団体会員	一口	10,000円/月

※一人でも多くの人に会員になっていただきたいと願っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

献金申込送金先

社会福祉法人 キリスト者奉仕会

〒836-0895

福岡県大牟田市新勝立町3丁目5番地15
大牟田恵愛園 0944-51-8750

《銀行振込》 福岡銀行 大牟田支店
普通 2512469

《郵便振込》 郵便振替 01780 - 3 - 38380

※この献金は福祉事業活動のために活用させていただきます
※郵便振込用紙を入れていますので、献金される方はご利用下さい。

オンライン

大牟田恵愛園・恵愛ワークセンター
ハーツ・たんぽぽ・つくしんぼ

クリスマス祝会の御案内

日時:2020年12月19日(土)

礼拝/10:00~ 茶話会/11:00~

場所:大牟田恵愛園・地域交流スペース(メイン会場)

内容:クリスマス礼拝・茶話会



メッセンジャー
泉 選也 牧師 (下関バプテスト教会)

茶話会では、
楽しい催し物が
あります。

※今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点により法人利用者、役職員の参加のみとさせていただきます。

<問い合わせ先> 大牟田恵愛園 TEL(0944)51-8750